

## 凡例

1. 本報告書は奈良文化財研究所が令和2年1月から令和2年12月にかけておこなった、西トッブ遺跡中央祠堂基壇部の調査修復の記録、第10冊目である。
2. 解体修復に際しては、現地文化財保護当局である APSARA（アンコール・シエムリアップ地域遺跡保護整備局：Authority for the Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap）の全面的な協力を得るとともに、日本国政府アンコール遺跡救済チーム（JASA）の技術的な支援を受けた。
3. 本書は解体修復に直接関わった企画調整部佐藤由似、現地調査員 Sok Keo Sovannara、客員研究員杉山洋が関係する研究員の助言を受けながら執筆と編集に当たった。図版の写真は上記担当者と現地のカンボジア人スタッフの撮影による。
4. 今後、解体修復の進捗状況に合わせて、随時、各報告を上梓したい。